

# IEC Report

No.9 December 2003

愛媛大学大学教育総合センター  
Ehime University  
Integrated Education Center

## 目次

- ・ インタビュー.....「共通教育と専門教育を接続したい」 (1)
- ・ センターニュース...「大学教育総合センター長が交代」 (3)
- ・ 授業のティップス...「ディスカッションが低調……」 (4)
- ・ センター運営委員会の動き..... (5)
- ・ センター日誌..... (7)
- ・ 授業に役立つ道具箱 ...「高等教育研究の核」... (7)
- ・ センター掲示板..... (8)

## インタビュー

### 共通教育と専門教育を接続したい

大学教育総合センター センター長 前川 尚

#### 愛媛大学の教育の「強み」と「弱み」はそれぞれ何であるとお考えですか？

まず平成 15 年 11 月より西頭先生の後任として副学長（教育・学生担当）ならびに本センター長となりました。よろしくお願ひ申し上げます。

強みとしてまずあげられることは、本学は 6 学部を擁する総合大学であるということです。今までの大学における教育はある学部のある学科の限られたカリキュラムの下で行ってきております。しかしながら、たとえば専門教育においては学問の発展と領域の重なりにより、教える内容が画一的でなくなってきました。総合大学では専門の異なる教員が近くにいるということで、教員同士切磋琢磨ができるという点が大きいと考えます。まだ実現はしていませんが、他学部、他学科の授業を自分たちのカリキュラムの中に取り入れることなど十分可能です。一方、教育組織面では共通教育の実施組織としての大学教育総合センターの存在があげられます。これは総合大学でのみ、実質的に可能な組織と考えています。

弱み、これは強みと裏腹に現れる現象と言えましょう。共通教育の企画と実施の責任が大学教育総合



センターに課せられました。しかし、現実を冷静に見たとき、専門教育を主体とする学部との関係がしっくりしていないのではないかと危惧しております。言い換えますと、共通教育と専門教育の接続というところが弱いということになりましょう。大学評価・学位授与機構の評価においてもこのことが指摘されています。これは本大学だけではなく全国的なことだと思います。教養部の廃止とともに教養部の先生が学部へ移り、責任部局制の廃止とともにこの大学教育総合センターが生まれ、ルネッサンスプランによる新しい教育がなされ現在にいたっております。教員の全学出動の下で共通教育を実施する。この考えは間違っておられません。これを実施できるのは総合大学である本学の最も強い面です。ただ、教育

をする先生たちの母体はそれぞれの学部であり、そこでは厳密なカリキュラムに従った専門教育がなされています。したがって、どうしても専門教育に重心が移り、共通教育は協力するか、悪く言えばやらされているという感じを持っている先生が多いのではないのでしょうか。4年一貫教育といいながら、センターが策定したカリキュラムの上に専門カリキュラムをのせているという感が強いのではないかと思います。この点を点検・評価しつつ共通教育の充実を図っていきたいと思っております。

### 前川先生は、これまで大学教育にどのように関わってこられましたか？

平成12年度より実践センター教官、大学教育総合センターにかかわってからはその運営委員となり、平成14年度からの総合センターの省令化に向けた作業に参画しておりました。また全学将来計画委員会の教育ワーキンググループの主査として本学における教育の将来について提案をしまりました。今作成中の中期目標・計画のたたき台の一部になったのではないかと思います。

工学部においては12、13年度と教務委員長をしました。工学部の教務委員長はカリキュラムや入試ならびに大学教育総合センター運営委員を兼ねるため、業務は多忙でした。工学部ではご存知のようにJABEE認定が大きな問題で、全国的にも理想的な「工学教育プログラム」はどのようなものか各大学で精力的に議論されています。愛媛大学でもそれをらんで、学科のカリキュラムの大幅な見直しを平成13年入学生から行いました。中でも他学科教員による授業の開講、技術者倫理に関する講義を導入したことなどがあげられます。

### 教育担当副学長として、今後の大学教育総合センターならびに本学の教育のあり方についての方針を教えてください。

「大学激動」、「大学変革」、「生き残れる大学」など、最近の書店にはたくさんの書籍が氾濫しております。社会も大きな関心を持っていることの現れでしょう。愛媛大学もこの流れの真っ只中にあります。特に学生あつての大学ですから、「教育改革」は避けてとおることのできない重要問題です。ただ、学生の教育にあたっては、大学の将来構想とともに、日々の日常的業務の遂行の他にきわめて具体的なことも実施

していかねばなりません。現在、FD、SD、CAP制、GPA、Semester制、オフィスアワー、シラバス等々が議論の対象になっております。一部はすでに実施されているものもありますが、それぞれの実行には全学的なコンセンサスと愛媛大学に見合った形で行っていくことが必要になりましょう。当然大学の将来構想(理念)に基づくものでなければなりません。筋道は逆になるかもしれませんが、このような具体策を実行する過程で「愛媛大学教育憲章」のようなものを策定していかねばなりません。

共通教育と専門教育の接続は、単に共通教育の一部を高学年に移すとか、専門教育を初年時に実行するなどということを意味しません。センターでも接続を意識した新しい共通教育のあり方を検討しております。学内の説明会でいろいろな注文が出ております。センター⇄学部の関係を密にしていきたいと思っております。学部専門教育にもそれぞれに固有の問題がありますので、各学部の教務関係者からなる会合を開いていく必要もありましょう。そういう意味で制度面を含めた教育体制の見直しも必要です。

教員⇄学生の教室での授業の他にも、学生の就学支援という大きな問題があります。そのためには、制度面の充実のほか、教職員の全員の教育への参加が必要になります。個々の学生の「入り口」から「出口」まできめ細かな面倒を見ていかねばなりません。いまここで詳しいことを述べる紙面もありませんが、ひとつだけ申し上げたいことがあります。授業にしても学生支援にしても前面に出るのは個々の教職員であることを忘れてはいけません。授業改善に関するFDひとつとっても、絶対のものはありません。個人の持てる力を最大限発揮でき、それらが輪になって組織全体として大きく成長していく、それがFDの本当の意味するところでありましょう。学生たちを好きになりましょう。そこから始まります。

(聞き手 佐藤浩章 大学教育総合センター)

### まえかわ・たかし

工学部教授 大学教育総合センター センター長(併)

1966年3月北海道大学理学部化学科卒業, 1973年3月理学博士(北海道大学)。専門分野 セラミックス, ガラス, 無機分析化学, 無機工業化学

▼ 大学改革に関する教職員・学生の皆さんの意見を掲載します。

## 大学教育総合センター長が 交代しました

西頭徳三前センター長が高岡短期大学学長として転出され、その後任として前川尚教授（工学部・副学長）が就任されました。

任期は平成 15 年 11 月 1 日～平成 16 年 3 月 31 日（残任期間）です。

## 平成 16 年度共通教育授業計画が まとめられました

9 月中旬から企画・実施部において立案作業が行われていた、「平成 16 年度共通教育授業計画」がこのほどまとめられました。今回はルネサンスプランが 4 年目に入るということで、立案にあたっては基本的に前年度までの方針がほぼ踏襲されましたが、主題別科目に新しい考え方による授業（特薦科目、少人数学生参加型授業）が部分的に導入され、今後の教養教育のありかたを探ることとしております。また、平成 14 年度に省令施設となった留学生センターからも国際交流を軸とする意欲的な授業提案があり、正規の共通教育科目として実施することになりました。例年のことですが、実際に立案にあたった各部会長、部会委員の先生方のご苦勞・ご尽力に心より感謝申し上げます。

## SD ワークショップが実施されました



12 月 12 日（金）、学務部会議室において、学務部教務課主催の、平成 15 年度 愛媛大学学務系職員 SD ワークショップ（以下、SDWS）が実施され、本学の学務系職員 20 名（スタッフ含む）が参加しました。

この SDWS の目的は、本学の学生支援の在り方について、参加者がグループ作業を通して課題を発見し、改善策を検討し、発表することによって、アドミニストレーターとして必要とされる「企画力」並びに「課題発見・解決能力」及び「プレゼンテーション能力」のスキルを獲得するための基礎的な知識と技術を学ぶことです。

初めに、開会の挨拶、研修のねらいと意義などのオリエンテーションの後、自己紹介を兼ねて「私の得意技」を披露したり、グループ名を付けたりするアイスブレイキングで皆が打ち解けました。

一柳教務課長による「廣中レポートにおける学生支援方策」、柳澤大学評価等情報収集分析室長による「中期目標・中期計画における学生支援方策」、奥居大学評価等情報収集分析室助教授による「SWOT 分析」と題する講演の後、付与された課題に対する問題点を探るべく、個人作業、グループワークを行いました。

午後には、大学教育総合センター佐藤講師による「創造的問題解決と KJ 法」と題する講演の後、午前中に各グループにおいて見出した問題点の改善策を探るべくグループワークを行いました。

グループワークにおいては、活発な意見が飛び交い「今後の業務に生かせそうだ。」「とても参考になった。」などの感想がありました。

次に、大学教育総合センター佐藤講師による「プレゼンテーションの技法」と題する講演の後、各グループ別に改善策の発表を行い、「問題解決能力」「プレゼンテーション能力」の 2 項目について、相互評価をチーム毎に行いました。

最後に、教務課長よりグループ別発表における最優秀チームの紹介と中堅職員への期待が述べられ閉会となりました。

### 「ディスカッションが低調なのですが…」

**Q. 30 人の授業を担当していますが、積極的に学生に質問をし、議論するよう促しているのですが乗ってきません。個々には話すのですが、集団での議論が苦手なようです。**



### A 「全員の意見を必要としていることを伝える」

少人数で双方向型の授業の必要性が叫ばれ、こうした授業が増えています。しかし、ディスカッションが活発にならないのでしたらよいかという悩みも増えているようです。米国の例ではしゃべりすぎる学生をどう制御するかという悩みがあるようですが…。下記では、ディスカッションを活発にするいくつかのコツを紹介します。

**目的を繰り返し伝える。**ディスカッションの目的は、問題を徹底的に考え、根拠を持って、自分の意見を主張すること、多様な意見を正確に聞き取り、的確に批評する能力を身につけることにあります。講義法では得られないスキルを身につけさせる方法であることを伝えます。これを理解させないと、惰性的に仕方なく、お決まりの発言をして終わりということになりかねません。

**ディスカッションのルールを伝える。**教員は、例え同じ意見であったとしても、全員の意見を必要としていることを伝えましょう。またどんな意見であってもまずは丁寧に聞きあうこと、批判する際には人格ではなく考え方を批判することをルールとします。これがあると学生は安心して、その枠内で議論をすることができます。

**話しやすい話題から始める。**まずは学生一人一人が意見を述べる訓練からしなければならぬ場合（新入生あるいは最初のディスカッション）は、学生の

話しやすい課題を与えます。例えば、考え方ではなく事実を聞く質問をします。「昨年観た映画は何ですか？」あるいは、学生個人の経験を引き出す課題も答えやすいものです。「皆さんの中学校では障害者用のエレベーターがありましたか？またあるべきだと思いますか？」こうした課題を、本題につなげていきます。

**少人数のディスカッションから始める。**30人のクラスの中で、発言するのはかなり勇気のいることです。与えた課題をまずは2人、3人で議論させ、そのグループの討論結果を全体で報告させることから始めてみます。意見の相違が出てきた段階で、グループ毎に意見のやり取りをさせるよう誘導します。

**自分の意見をまとめる時間を確保する。**いきなり与えられた課題について議論することは困難な作業です。事前に宿題として全員に課題を提示したり、予習をしてディスカッションをリードする学生を決めることもアイデアです。宿題にしなくても、授業中に課題を出した後10分間自分の考えを紙にまとめる時間を確保してから、その記述内容をもとに議論に入ります。

**机や椅子の位置を工夫する。**講義法向けの机の配置ではディスカッションがしにくいので、互いの顔が見えるように半円形にしたり、机をくっつけて島をつくったりします。机の移動を学生は面倒がりますが、多少の時間をかけるだけでディスカッションが活発になるのであれば、大した手間ではありません。

**学生の発言を取り入れる。**「〇〇さん、さっきグループディスカッションで話していたことを全員にもう一度聞かせてくれる？」といったように、教員のコメントではなく、学生の発言を積極的に取り上げます。

参考文献：『授業の道具箱』pp. 75-99

(バーバラ・グロス・デイビス 東海大学出版会 2002年 2800円)

▼ 大学教員が授業をする上で役立つコツを伝えます。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員まで。

## センター運営委員会の動き

▼ 大学教育総合センター運営委員会の中から主要な審議、決定事項を抜粋してお伝えします。(10/11 月期)

◆第10回(10月15日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
(審議事項)

1 平成14年度大学教育総合センター自己点検・評価について

前山自己点検・評価委員会委員長から、資料に基づき、提案があり、審議した結果、改善方策について明確にする必要があるため、次回のセンター運営委員会で継続して審議することとなった。

委員長代行(松久副センター長)から、改善方策等を検討するためのWGの設置について提案があり、了承され、WGの委員に3人の副センター長と高松、山崎、赤間、前山、佐藤(浩)の各委員が選出された。

2 平成16年度未習・補修授業について

井出委員から工学部では、平成16年度については、未習授業及び補修授業の英語については実施せず、補習授業の数学について1コマのみ開講願いたい旨、提案があり、審議した結果、工学部での方針が最終的な決定をみてから、再度、センター運営委員会で継続審議することとなった。

3 共通教育企画・実施部に関する内規の一部改正について

規則・組織小委員会から、共通教育企画・実施部に新たに第12部会(日本語・日本事情)を置くことについて提案があり、承認された。

4 平成16年度共通教育科目のシラバスについて

松久企画・実施部長から、シラバスの項目は変更しないこと、経費節約のため冊子として印刷するのは、学生の受講選択が行われる科目についてのみをしたい旨、提案があり、審議の結果、承認された。

(報告事項)

1 キャンパス間接続中継システムについて

2 前学期の反省と後学期のナイトサロン充実に向けて

3 第6回教育実践シンポジウムについて

4 特色ある大学教育支援プログラムの審査結果について

◆第11回(10月29日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
(審議事項)

1 平成14年度大学教育総合センター自己点検・評価への対応について

松久大教センター見直しWG長から、WGでの検討状況の説明があり、審議した結果、共通教育と各学部との連携がより重要となっているため、抜本的な改革が必要との意見が大勢を占め、今後、慎重に検討して行くため、継続して審議することとなった。

2 第12部会の部会長及び委員について

松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき、提案があり、審議した結果、原案どおり、承認された。

3 愛媛大学広報委員会委員等の推薦について

佐藤広報小委員会委員長から、資料に基づき、提案があり、審議した結果、原案どおり、承認された。

4 リンクカリキュラム(仮称)に関する説明・意見交換会の報告書について

高松教育改革推進委員会委員長から、資料に基づき、提案があり、審議した結果、原案どおり、承認された。

5 大学教育総合センター専任教員(教育システム開発部)の選考委員会の設置について

委員長から、資料に基づき、提案があり、選考に関する申合せ第5第1項第3号に規定する委員に、山本委員、藤原委員を選出した。

また、委員から、職務内容について、明確にしておく必要があるとの意見が出され、募集要項に反映することとした。

(報告事項)

1 中予地区学長懇談会教学ネットワーク等検討委員会について

2 平成16年度非常勤講師の任用計画等について

3 その他

11月1日付で高岡短期大学学長に転出すること

となった西頭委員長から、退任に当たっての挨拶と謝辞があった。

◆第12回(11月12日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
(審議事項)

- 1 平成16年度共通教育科目の開講計画について  
松久共通教育企画・実施部長から、平成16年度の共通教育科目の授業計画については、現在も部会での調整が行われており、次回のセンター運営委員会で提案したい旨、説明があり、了承された。委員長から、本日は資料に基づき、非常勤講師問題について議論したい旨、提案があり、意見交換が行われた。
- 2 平成16年度開放科目について  
松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき、提案があり、各学部を持ち帰り、検討願ひ、12月5日(金)までに共通教育係へ回答することとした。
- 3 平成16年度共通教育履修指導について  
松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき、提案があり、このことについても各学部を持ち帰り、検討願ひ、12月5日(金)までに共通教育係へ回答することとした。
- 4 平成16年共通教育補習授業実施計画について  
松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。  
また、井出委員から、工学部での検討状況について報告が行われた。  
(報告事項)
- 1 愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会報告について
- 2 平成16年度共通教育実施に関する申合せ等について
- 3 平成16年度日本国憲法の開講時間について
- 4 第1回大学間FDネットワーク会議について
- 5 第3回理学部フォーラムについて

◆第13回(11月26日開催)◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆  
(審議事項)

- 1 平成16年度共通教育科目の開講計画について  
松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、承認するとともに、これからの変更については、センター長に一任することとした。
- 2 平成16年度共通教育科目の非常勤講師任用計画について  
松久共通教育企画・実施部長から、資料に基づき提案があり、審議の結果、了承するとともに、これからの変更については、センター長に一任することとした。
- 3 その他  
ベストティーチャー賞への学長室連絡会での意見について  
委員長から、このことについての意見が紹介され、種々意見交換の後、再度WGで検討することとなった。  
(報告事項)
- 1 平成16年度夜間主コース主題別科目の第1回目の授業の取り扱いについて
- 2 平成15年度中国・四国地区国立大学教養教育実施組織代表者会議について
- 3 第6回愛媛大学全学シンポジウム(教育実践シンポジウム)について

## 10月

- 1日 予算小委員会
- 2日 第13回共通教育企画委員会
- 8日 第8回教育改革推進委員会
- 8日 第5回センター自己点検評価委員会
- 15日 第10回センター運営委員会
- 15日 予算・施設合同委員会
- 16日 第14回共通教育企画委員会
- 22日 第5回共通教育実施委員会
- 29日 第11回センター運営委員会
- 29日 予算・施設・環境合同小委員会
- 30日 第15回共通教育企画委員会

## 11月

- 10日 第16回共通教育企画委員会
- 12日 第12回センター運営委員会
- 20日 第17回共通教育企画委員会
- 26日 第13回センター運営委員会

## シリーズ 授業に役立つ道具箱(6)

**高等教育研究の核**  
**広島大学高等教育研究開発センター**  
 (http://rihe.hiroshima-u.ac.jp/)



今回紹介するのは、広島大学高等教育研究開発センターのサイトです。同センターは、日本で最初に設置された大学・高等教育に関する研究のための専門機関です。センターは、その設置目的として「大学内外の研究者の協力を得て、大学・高等教育に関する研究調査を行う」(センター規程第2条)を掲げており、日本における高等教育研究の核となっています。

同センターのサイトでは、国内外の高等教育に係る組織へのリンク(本学の大学教育総合センターももちろん掲載されています!)や、センターの公刊している出版物のダウンロード、国内外の最新の高等教育に関する情報提供、高等教育に係る統計情報の提供などが行われています。

また新着情報の更新も素早く行われており、今、高等教育の分野において、何が最もホットな話題なのかを知ることができます。

高等教育研究は、大学教員にとって、あまりにも日常的なフィールドであり、日本においても研究の歴史は浅いのですが、大学大衆化時代を迎え、ますます必要とされる研究分野の一つだと言えるでしょう。

▼ 大学教員が授業をする上で役立つ書籍、WEB情報を紹介します。取り上げて欲しいテーマがある方は、巻末の編集委員までご連絡下さい。

## 法人化のための FSDS セミナーのご案内

12 月から 2 月にかけて下記のテーマでセミナーが開催される予定です。

当該分野において、全国的に先進的な取組みをされている大学から講師をお呼びしております。

場所等の詳細情報は再度お知らせしますが、日程のみ先にお知らせいたします。

皆さまのご参加をお待ちしております。

主催：大学教育総合センター教育システム開発部

○12 月 11 日（木）午後 2 時～ 工学部 18 番教室  
日本福祉大学常任理事 篠田道夫氏  
『これからの SD（スタッフ・ディベロップメント）—今なぜ SD が求められるのか—』

○12 月 12 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
佐賀大副学長 新富康央氏  
『佐賀大学「地域貢献」への挑戦—21 世紀型大学をめざして—』

○12 月 19 日（金）午後 3 時～ 共通教育会議室  
山口大学 アドミッションセンター 富永倫彦氏  
『—山口大学アドミッションセンターの入試改革へのヒント—』

○1 月 9 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
長崎大教育学部長 橋本健夫氏  
『教員の総合的業績評価』（仮）

○1 月 23 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
立命館大学キャリアセンター就職部長  
（産業社会学部教授） 林 聖太郎氏  
『学生の就職支援』（仮）

○1 月 30 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
北海道大学施設部企画課長 藤村達雄氏  
『施設設備のファシリティマネジメント』

○2 月 6 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
金沢大工学部教授 田中一郎氏  
『新しい時代の教養教育を考える』

○2 月 27 日（金）午後 3 時～ 事務局第 5 会議室  
和歌山大学学生自主創造科学センター長  
（システム工学部教授） 森本吉春氏  
『若者の自主性や創造性を育てるために』（仮）

○未定  
新潟大学人文学部教授 小林昌二氏 場所未定  
『FD・SD 関係』未定



## ■■■IEC リポート No9■■■

## 愛媛大学大学教育総合センター広報誌

発行日：2003 年 12 月 1 日

発行元：愛媛大学大学教育総合センター

〒790-8577 松山市文京町 3 番

TEL 089-927-8904（代表）FAX 089-927-8915

<http://www.iec.ehime-u.ac.jp/iecweb/index.html>

編集者：愛媛大学大学教育総合センター広報小委員会

中村慶子（医学部）

折本素・松久勝利・◎佐藤浩章（大学教育総合センター）

内容に関する意見・要望・お問い合わせは、◎印の委員まで  
お願いします。sato@iec.ehime-u.ac.jp 内線 8346